

10



October

俳句

(2024)



目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
10 ↳	5 ↳	1 ↳

10月の和名は「神無月」。
雷の鳴らない月だから「雷無月」、新穀（その年に穫れた穀物。ここでは特に新米のこと）で酒を醸す月だから「醸成月」など、由来には諸説ありますが、中でもっとも有力な説は、10月は神様を祭る月だから「神の月」と呼ぶ、というものです。ちなみに「出雲大社に神様が集まって諸国には不在になることから神無月」という有名な由来は、中世以降の俗説なんだそう。

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

秋思かな丸ノ内線月曜日
半日を蜘蛛の巣ながめ秋思かな

死を思う眠りに入る夜長かな
夜長かなマラーラー五番アバド指揮

中年の肥満ますます秋渴き
美味あふれ日本列島秋渴き

秋の蜂迷子になつて我が部屋へ
社説など読んでも空し秋の蜂

ニュータウン少し古びて秋祭
水澄んで世の中濁り鯉なげく

カリンカリン不揃い花梨風に揺れ
花梨の実玄関飾り甘くなる
花梨の実頑固に固く泣き笑い



頑張れと言われて困る草の花
格差ありそれも人生草の花
秋草も密かに競う生きるため

ここまでに絡まり咲いて烏瓜
誘惑は目に入れぬよう烏瓜
烏瓜惑いなき赤・・・烏瓜

ジャズ喫茶ほろびるなかれ秋の雨
マスコミは主張ばかりよ秋の雨
秋霖や就寝前にバラードを
喫茶店今日も三時に秋の雨

ひたむきに生きて見上げる秋の雲
ひたむきに流れるだけの秋の雲
秋の雲喜怒哀楽を連れて行く



秋晴れや下着選びに迷いけり
秋晴れやデパート屋上人多し
あからさま老化現象秋の暮

ものぐさや独り者にも秋の夜
「生きてるよ」
「EZ」一言夜の秋

越辺川あまた遠くに秋の海
秋の海千島列島波荒し

隠せない秋の空には隠せない
団地にて朝の散歩や秋の草

のつぺらぼうそれも愛嬌菊人形
メイクなし証明写真鳥わたる

藤の実や完熟そして種子散布
秋時雨橋を巡りて隅田川



原発にテロありという秋時雨

枯蓮や闘い続く明日のため

冬支度ヒートテックを買い置きし
終活の身辺整理冬支度

鬼灯やその朱あやしく朱に見とれ

鬼の子は上から目線世の中を
鬼の子は専守防衛引きこもる

おはじきが飛ぶがごとくに流れ星
まだ変わる我が結末や流れ星
池袋中華街にも星流れ

銀座にも秋風が吹きコーヒーを
秩父にも秋風吹いて遍路かな

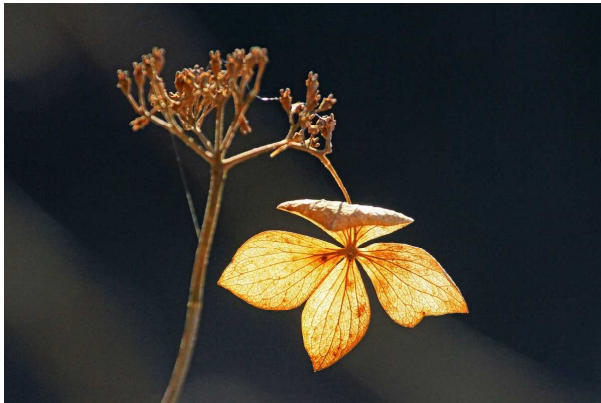


秋風や喜捨ををはずんで呆け封じ
東京の数多の路地に秋の風
街散歩秋風つれて神楽坂
秋風に舞う葉運命その行方

テロリストどこの国にも黄落期
薄野やパラグライダー滑降す

行く秋や熟した後の行く末は

末枯れやいずれあの世の道を行く
末枯れてバス停一人影を踏む



モーロク俳句

天高しされどパチンコモーロクし
ぼろぼろになりしモーロク案山子立つ

水澄むやモーロクすれば無関心
モーロクし未来は如何に胡桃割る

モーロクし口の周りにとろろ汁
モーロクし待つこと出来ず石榴落つ
モーロクし南無阿弥陀仏石榴落つ
モーロクし昨日の夢を酔芙蓉

モーロクし終わりを信じ夕化粧
モーロクし疎外と妬み椿の実

モーロクし秋明菊とあの世まで



貴船菊咲けどモーロクまた進む

モーロクし歩幅小さく草の花
モーロクし寝て起きまた寝草の花
モーロクしすべて雑草草の花

モーロクしつじつまあわせ菊なます
モーロクしされど宇宙や流れ星

烏瓜見つけ戸惑うモーロクし
モーロクしねむくてならぬ烏瓜
まつさきに熟れてモーロクからすうり
モーロクし非は必然に烏瓜

モーロクし淋しき影が花野ゆく
モーロクしだんだん遠き花野かな
夕花野はてし無き先モーロクす
モーロクし死神の待つ大花野



秋霖や独りモロク噛みしむる
モロクし無声映画か秋雨は

秋の夜一人の自由モロクし
秋の夜のパソコン疲れモロクす

モロクし財布落として秋祭り
モロクし歳月加速実南天

モロクし心も薄く秋思かな
返り花そのうち人はモロクし

秋晴れも途方に暮れるモロクし
秋風やモロク怒りいづこより
モロクしさらわれそうな秋の風

敗蓮にまだ色残るモロクし



冬支度モーロクすれば何もせず

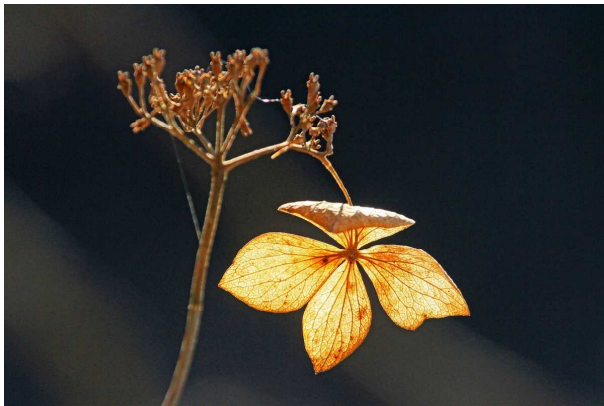
モーロクし無となる宙やみなすすき
モーロクし松ぼっくりが落ちました

モーロクし紅葉の色もぼんやりと
モーロクし末枯といふ景色あり
末枯やモーロクころ日が暮れて
末枯るる滅びゆくものモーロクし

モーロクしされど等しく夜長かな

ちぐはぐにモーロクころ夜寒かな
モーロクし誰と話すか夜寒かな

モーロクし人間とは秋の暮



たべもの俳句

噺家が新そば啜る高座かな
シンプルにきのこの和風 Pasta かな

秋気充つヒマラヤ塩のピンクかな
味噌汁にシメジ数個が浮かびけり

シヤキシヤキのりんごたっぷりポテサラダ
秋渴き豆乳ラーメンまるやかに

椎茸のうまみからんで Pasta かな

紅生姜赤が映えたる卵焼
秋寂し焼きそばやはり紅生姜

秋風や贅沢サラダ赤き海老



えび二本天ぷらせいろ秋
野菜彩り添えて天せいろ

生姜煮る脳にチリチリ辛みあり
さつぱりとしょうがしぐれ煮混ぜずしに

きのこ鍋スープと薬味バラエティ
塩ゆでの生落花生おつまみに

さつまいもカレーそぼろ煮のつけもり
さつまいもカレーそぼろ煮井で

寂しいと茸ご飯を五合炊く
サーモンとゴルゴンゾーラ秋パスタ

ゆで卵殻が反抗秋の朝
素朴さをあえて選んで次郎柿
おにぎりを持って出かける竹の春



菊日和クリームシチューことことと
菊日和ラーメン食べに街散歩

秋野菜いろいろ味わうカレーかな
クロワッサン隙間隙間に秋の風

里芋がえびのうまみをピラフかな
南瓜煮る電子レンジで甘くして

鶏肉と秋の根菜デリ風に
プルコギ風ピーマン加えて夜の秋

秋深し冷凍餃子で手抜きかな
朝寒やトースト焼けて匂い立つ

温め酒あたため豆腐日本人
子芋蒸し塩を一振り酒を酌む
夜の秋備前の酒を江戸切り子





